

公衆衛生部門

受賞者： やまぐち のぼる 山口 昇 (85歳)

公立みつぎ総合病院 名誉院長・特別顧問



1966年に広島県御調町の御調国保病院（現在の公立みつぎ総合病院）の病院長として就任。地域住民は病院医療だけではなく保健・福祉・介護も必要としていると考え、退院後の在宅医療、すなわち福祉・介護サービスも提供できる体制を構築した。病院の基本理念を「地域包括医療の実践と地域包括ケアシステムの構築」とし、当時は画期的だった院内保健福祉センターを併設。また広島県御調町の厚生課の保健部門と住民課の福祉部門を移管するなど、行政機構として地域包括ケアシステムを実現させた。

地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で能力に応じ「自立した」日常生活を営むことができるよう支援を包括的に確保するこの体制は、全国で実現すべき政策として多くの自治体で取り組まれている。このケアシステムの名称は、日本で最初に言葉として用い、自ら実践したものである。それが現在では全国的な目標として掲げられるまでになった。

リハビリテーションにおいては、寝たきりゼロ作戦を提唱し、病院におけるリハビリだけでなく、地域において訪問でのリハビリテーションの推進に取り組んだ。介護保険制度が定められてからは訪問看護やリハビリが当たり前になっているが、制度がまだない時代から先駆的に在宅ケアに取り組んできた。

今日の超高齢社会において必要不可欠になっている「地域包括ケアシステム」の生みの親として、多くの保健・福祉・医療関係者の羅針盤となり幅広く活動している。

推薦者： 宮島 俊彦 東京女子医科大学 監事